

インターバンクの声（2014年9月1日）

注目イベントが多い1週間が始まる。

その中でも注目を集めるのが各国の中銀会合と米国雇用統計であろう。中銀会合の中では、欧州中央理事会に関心が集まっている。

22日のジャクソンホールでのドラギ総裁の講演で「インフレ期待が低下している」との発言があり、市場では追加緩和への期待が高まっており、先週もユーロドルは年初来安値を更新し、ユーロドルは1.3153ドルまで下落した。

今回の会合では追加緩和は見送られるとの見方がコンセンサスではあるものの、追加緩和が行われるとの見る向きも一部ではあるだけに、追加緩和が行われなかった場合のユーロの巻き戻しには注意が必要であろう。

もう一つの注目イベントである、米国雇用統計であるが、最近の雇用統計発表直後のドル円の動きとして、ヘッドライン発表直後の上昇で高値を付けた後、じりじりと値を下げるという展開がよくみられる。

今回も市場予想では、前月比22.0万人の増加と7ヶ月連続での20万人以上の増加が予想されているが、ヘッドラインだけでなく、賃金動向やパートタイマーの動向も併せてチェックする必要があるようだ。

また、今週は豪ドルの動きにも注目したい。豪州は、2日に政策金利、3日にGDP、4日に貿易収支・小売売上高と連日重要な指標発表が相次いで発表される。更には、1日、3日には中国の経済指標（製造業、非製造業PMI）の発表も予定されており、指標の結果次第では豪ドルもレンジ相場から抜け出す展開が想定される。今週は気の抜けない1週間となりそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。